

# ほのぼの

第7号

平成16年

7月

発行

神戸市須磨区戎町1-2-3

TEL 078-732-5209

信行寺門信徒会



## 花まつり 子供大会

## 楽しかったお花まつり

紺谷知暁

「今度の日曜日はお花まつりだね。」と、子供たちは、毎年4月のお花まつりを楽しみにしています。

お花まつりはお歌に始まり、おつとめ・折り紙・ゲームと、

リズムよく、次から次へと楽しいことがいっぱいです。

今年は特に、折り紙で輪を作り、輪投げをしたことが楽しかったようです。「賞品のお菓子をゲットするぞ。」とがんばっていました。

また、最後に頂く「お土産」が楽しみの一つです。「今年はどんなものが入ってるかな？」と、どの子供もうれしそうな笑顔をしています。

毎年参加させて頂いて頂いていますが、アットホームな感じがいいですね。また来年も楽しみにしています。子供たちも、「来年もまた来ようね。」と頂いたお菓子を口にほおばりながら、にこやかな表情をしていました。



# 花まつり

長井輝子

四月十一日、日曜日正午から信行寺に於いて恒例の花まつりが催されました。副住職恵悟様の主催。

晴天に恵まれ子供達二十余名が嬉々として参加、この中には副住職の御長男空城君と長女の光輪ちゃんも一緒でした。

正午から一時間余りお釈迦様のお話や歌、又折紙の先生に教わった千代紙の輪投げ等をして、大はしゃぎで楽しく過ごしました。

花御堂の小さなお釈迦様の頭に甘茶をおかけするのは何故？、大きくなってから郷愁にも似た想い出となることでしょうか。

甘茶は現代ではハーブティで片づけられそうですが傘寿をむかえた今でも、ほろ苦く甘い味が、幼い昔の花まつりを想い出させてくれます。年配の方でも時代の流れ

の中でこの行事を経験されなかった人もあることを知り、花まつりに参加出来る有り難さを教えられました。

二時からは一変して大人の行事になりました。チベットの遊学しておられた副住職ならではのコンサート。バンド名は「デワチエン」です。

副住職と四人の友人による民族楽器の演奏があり、釈尊のインド、そしてシルクロードや、チベットの光景が、目にうかんでくる様な陶酔の世界を味わうことが出来、改めて音楽の素晴らしさを痛感しました。まさに音楽には国境を越えた言葉以上の何かがある様です。この度の花まつりコンサートには感激しました。

合掌





## 「花まつり」コンサート ♪♪

お釈迦様がマアヤ夫人からお生まれになったその時、甘美な香りと甘露（甘い雨）が降りそそいだとのことです。仏教は今や世界中の人々に求められ、救いとなっています。すべては釈尊という、ひとりの人の誕生から始まり、この日をお祝いするのが「花まつり」だと聞いています。

「花まつりコンサート」が、副住職と友人（デワチエン）による民族楽器の演奏ではじまりました。インドの弦楽器シタールや、アフリカの太鼓ジャンベ、ギターなどの絶妙なハーモニーで、独自の音楽を展開してくれました。

感動した参加者のおひとりが、飛び入りで「民族舞踊」まで披露してくださいまして、大きな拍手がいつまでも続きました。

いろいろな民族楽器と声明で音楽を通じて、来場の皆様と心を分かちあえたものと思います。副住職からの、インド・シルクロード・チベットのお話もおききして、ほんとうに楽しいひとときを過ごすことができました。

（月 田 幹 雄）



# 「法話」 人生の大黒柱

住職 米田 睦雄

日本の伝統的な家屋は、一本一本の柱が横木としつかりと固定されておらず、柱の穴に差し込まれているだけです。これは柱と横木に「あそび」のある構造を作り、地震のときに、それぞれの柱が上下に動く、連動して横木も動くようにしているのです。しっかりと固定してしまうと、力が一か所に集まってポキッと折れてしまうからです。

さらに、柱と横木で家全体の重量を支えるのではなく一番太い柱一本に全部の梁をかけて屋根を支えるようにしています。これを大黒柱といい、これに全部の力が集中できるようにしています。ということは、地震で揺れても、大黒柱がもとに戻れば、ほかの横木ももとに戻り、家は狂うことがない。「大黒柱は一本」に限ります。二本にすると、それぞれの



柱に別の力が加わり、地震の揺れが収まったときには、それぞれの柱が勝手なところに戻るために、家屋はいびつになつてし

まうそうです。

わたしたちの生活でも、「あそび」と「大黒柱」がいます。「あそび」は「余裕」です。「水」のようなものです。水は潤いをつくります。これがないと砂漠のような心になつてしまい、人にも自然にも、優しくなれませんか。もちろん自分自身にも。余裕の有無は「最後のすわり」が有るか否かで決まります。

人生における「大黒柱」はわたしの人生のすべてを引き受けてくれる「人生で一番大事なもの」です。「これがあるから、生きてゆけるし、死んでゆける」といえるものです。人生なにが起こるかわかりません。わたしの人生を潰しかかる大地震のようなこともあり、台風のようなこともあります。しかし、大黒柱があれば乗り越えられます。

この世の大黒柱はお念仏です。お念仏に支えられてはじめて人生に余裕も生まれます。「念仏のみぞ まことにておわします」と親鸞聖人は教えてくださいました。「あなたの人生に大黒柱がありますか」と、生きてゆく日暮らしは、わたしに問いかけているのではないのでしょうか。人生の基本を忘れないようにしたいものです。

## 質問コーナー

問い 葬儀など仏事法要についておたずねします。

答え 亡くなられた人の肉体に最後の奉仕をするのが葬儀です。人生における重大な別離の儀式です。ただ形式的に葬儀を行うのではなく、出会った縁の深さを思い、亡くなられた人を偲びながら意義深くつとめることが肝要です。

命日から数えて四十九日の期間を「中陰」といいます。亡き人を偲んで喪に服す期間です。その間、七日目ごとに仏事をつとめ、四十九日目を「満中陰」といいます。

百日目を「百ヶ日」といいます。

また、毎月の命日を「月忌」、毎月の命日を「祥月命日」といいます。

祥月命日に行う仏事で、死亡の翌年を「一周忌」次の年を「三回忌」、以下「七回忌、十三回忌、十七回忌、二十五回忌、三十三回忌、五十回忌」などは、特別な仏事として大切につとめます。



## 有り難いことです

仏教青年会 久保田 芳海

仏教青年会に参加させて頂くようになって、今年で二年になります。門信徒でもない私が、このような仏法を学ぶ機会に恵まれたことを、たいへん有難く、うれしく思っています。

この勉強会で、私は毎回、貴重な体験をさせて頂いています。会の始まりにおつとめをします。とても静かな気持ちになります。このような穏やかな心でいけば、いろいろと争う必要もなくなっていくと思います。

私たちのような若い世代の人が、気楽に、お寺におまいりすることができ、学問として、知識としての仏教でなく、真実の仏の教えを聴かせて頂くことができます。それから、わからないことは何でも、気軽に聞くことができ、本当に「有り難い」ことです。

このような仏縁を頂いたことに、心から感謝します。





## 【永代経法要】

「永代経」というのはお経の名前ではありません。永代にわたりお経をあげる、ということからこう呼ばれているのです。

亡くなられた方をご縁に、親族によってお寺に懇志を納められることにより、永代にわたり読経されます。

阿弥陀さまが安置され、お経が読まれ、お経が説かれ、お経が聞こえる場はお寺です。

「永代経」の意味は、

①お寺が永代に維持されること。

②子孫が永代にわたって仏法を聞くことができることです。

その精神は、やがて子や孫など次世代に受け継がれ、お念仏のみ教えを広め、伝える力となります。お念仏のご法義と、亡くなられた方や子孫を大切にされるあなたの思いが、永代経法要となっています。



十六年度永代経で、礼拝堂の「須弥壇」を寄贈くださいました。

竹間威雄様

ありがとうございます

ございました。

## 【お斎（おとき）】

「斎」は「さい」とも読みますが、「つつしむ」の意味です。これを「とき」と読み、仏事法要のときの食事のことをいいます。

その名称のものは、仏教の戒律では、正午以後は食事をとらないことが定められていますが、正午以前にとる正式な食事を「斎」と称していたことに始まります。



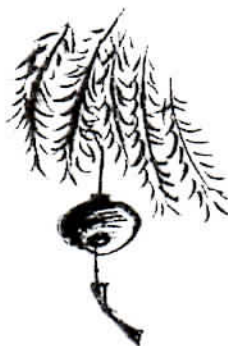
(永代経法要・5月29日のおとき)

## 「報恩まつり」に参加して

コーラス雅会代表 谷川 恵美子

今年も神戸真宗連盟の報恩まつりが神戸文化ホールで行なわれました。第三十一回親鸞聖人の報恩まつりです。

信行寺雅会のコーラスも今年で八回目の参加です。当日



早目に集合、地下にあるリハーサル室でリハーサルを行い、昼食後舞台に集合、白いガウンに紫色のリボンの正装です。舞台中央に仏

壇がしつらえられ美しい花が飾られて聖歌隊は左右に百余名が分れての着席です。幕が上り満席の会場で歌える私達は何と幸せなんだろうと毎回感謝しております。門信徒会の皆様も雅会のコーラスに参加して、この報恩まつりで一度歌ってみられては如何でしょうか。この会は経験年令は問いません。仏教讃歌を歌える幸せ、気持が落つき安らぐありがたさが何よりです。来年は私達と一緒に舞台に立ってみては如何でしょうか。毎月第三土曜日午前十時から信行寺にて練習しています。ぜひご参加を。

## 『高山方面旅行記』

四月二十六日と二十七日の二日間、飛騨路への研修旅行をいたしました。

第一日目は、「郡上おどり」で有名な郡上八幡町にある「安養寺（真宗大谷派）」に参拝し、次いで、「郡上八幡博覧館」では城下町の歴史を学び、「郡上おどり」の手ほどきを受けました。

その後、高山市に行き、「真宗大谷派・高山別院」に参拝しました。

第二日目は、朝から生憎の小雨模様になりましたが、中村久子さんゆかりの「真蓮寺」におまいりしました。妙好人・中村久子さんは、幼くして霜焼けがもとで脱疽となつて両手両足を失い、言語に絶する苦勞を重ねられました。『歎異抄』と出会つて親鸞聖人のみ教えに「生き抜く力」を与えられ、その生涯をボランティア活動に捧げられたとの住職のご説明に、感動させられました。

次いで、「民族村・飛騨の里」、最後に、NHK朝の連続テレビドラマ「さくら」の舞台となつた古川町に行き、和ろうそく店「三嶋屋」を見学し、「三寺まいり」で有名な本派の「円光寺」「本光寺」に参拝しました。



このたびも良き仏縁に恵まれた研修旅行で  
(川口昭次記)

## || 夏期特別法座のご案内 ||

恒例の『夏期特別法座』を左記の通り開催致します。  
二十二回目になりますが、初めての方もお気軽にご参加  
をお待ち申し上げます。

◎日時 八月十七日(火)

十一時～十五時(十時半より受付)

◎場所 『シーパル須磨』(須磨水族園西へ200m)

神戸市須磨区須磨浦通一―一

☎ 〇七八―七三二―六八一五

◎法話 信行寺 米田睦雄住職

◎参加費 四、〇〇〇円(昼食代を含みます)

◎申込み 電話でも申込み受け付けます。

信行寺 ☎ 〇七八―七三二―五二〇九

参加費は当日でも結構です。

### 編集後記

今回から「ほのぼの」の編集委員が新しく  
なりました。

不馴れなため充分なものができないと思  
いますが、皆さんのご支援により、さら  
に内容の充実に努めたいと思います。

みなさまに愛される、みなさまの寺報に  
なるよう、頑張りますので、よろしくお願  
いします。

従来から「文芸欄」に、ご投稿いただき  
ありがとうございます。これからも、どん  
どんご投稿ください。

なお、次回から「わが家の自慢コーナー」  
のような欄を設けたいと思っておりますので、  
お気軽にご投稿をお願いします



(編集担当)

長井輝子  
月田幹雄  
泉井玲子  
中川さなみ